

明治四十四年一月三十一日

三重縣公報

第二千三百三十六號

火

曜

日

○ 告 示

●三重縣告示第四十九號
漁業組合設置ヲ認可シタルモノ左ノ如シ

明治四十四年一月三十一日

| 設置認可年月日 | 名 | 稱 | 地 | 區 | 事務所ノ位置 |
|---------------|-------------|----------------------|----------------------|---|--------|
| 明治四十三年十二月二十八日 | 追子塩屋檜山路漁業組合 | 志摩郡濱島村大字 追子塩屋、檜山路 | 志摩郡濱島村大字 追子九拾五番屋敷 | | |

●三重縣告示第五十號

三重縣知事有田義資

西井音松

左記ノ者ヘ頭書ノ通小學校教員免許狀ヲ授與セリ

明治四十四年一月三十一日

尋常小學校本科正教員

○ 彙 報

●町村長助役認可
一月廿六日

一志郡中川村助役

●曩ニ本縣實業視察員ヲ嘱託シ清國ニ於ケル茶
業等ニ關スル視察ヲ命シタル視察員森川友藏柿
彌十郎ヨリ提出セル復命書別冊ノ通

小坂與一郎

●褒賞

直江 鶴助

金五圓及勞力八日分

ノ山尋常小學校建築費

上村彌之助

金五圓及同

北牟婁郡便相賀村

内山 留吉

金參圓及同

福本 定市

五味四郎兵衛

金五圓及同

金五圓及同

内山 直江

金貳圓及同

玉津幸太郎

兵後久次

金五圓及同

金五圓及同

上村嘉市

金貳圓及同

玉津又兵衛

水本源四郎

金五圓及同

世古音次郎

直江勝助

金貳圓五拾

玉津安吉

世古今藏

金五圓及同

金五圓及同

東龜之助

金貳圓五拾

玉津與平

兵後貞藏

金五圓及同

金五圓及同

東江庄三郎

金貳圓五拾

玉津久次郎

上村兵次郎

金五圓及同

金五圓及同

濱田安五郎

金貳圓五拾

金貳圓五拾

玉津與平

金五圓及同

金五圓及同

五味覺次郎

金貳圓五拾

玉津安吉

兵後久次

金五圓及同

金五圓及同

世古多市

金貳圓五拾

金貳圓五拾

東定吉

金五圓及同

金五圓及同

五味佐吉

金貳圓五拾

玉津安吉

上村甚助

金五圓及同

金五圓及同

佐々木久助

金貳圓五拾

佐々木竹之助

家崎音吉

金五圓及同

金五圓及同

片原兵助

金貳圓五拾

五味菊次郎

佐々木竹之助

金五圓及同

金五圓及同

上村安吉

金貳圓五拾

佐々木竹之助

佐々木竹之助

金五圓及同

金五圓及同

白椿はん

金貳圓五拾

佐々木竹之助

佐々木竹之助

金五圓及同

金五圓及同

赤松德太郎

金貳圓五拾

佐々木竹之助

佐々木竹之助

金五圓及同

金五圓及同

森本忠作

金貳圓五拾

森本忠作

森本忠作

金五圓及同

金五圓及同

河上政治

金貳圓五拾

河上政治

河上政治

金五圓及同

金五圓及同

同郡尾鷲

金貳圓五拾

同郡尾鷲

同郡尾鷲

金五圓及同

金五圓及同

同郡相賀

金貳圓五拾

同郡相賀

同郡相賀

金五圓及同

金五圓及同

同郡船津

金貳圓五拾

同郡船津

同郡船津

金五圓及同

金五圓及同

同郡相賀

金貳圓五拾

同郡相賀

同郡相賀

復命書

生等曩ニ本縣ノ囑託ヲ受ケ清國ニ出發シ支那ニ於ケル製茶事業及其取扱ヲ專ラトシ傍ラ養蠶、木材等ニ關スル視察ヲ遂ゲタリ然レトモ其ノ期節ハ既ニ製造ノ時期ヲ去リ緻密ノ調査ヲ爲ス能ハサルノミナラス養蠶木材ニ至リテモ漸ク其ノ梗概ヲ取調ヘタルニ遇キス殊ニ這回ノ事業タルヤ生等ノ淺薄ナル觀察力ヲ以テ各種ニ亘リテ視察シタルカ故ニ元ヨリ謬見誤聞ヲ免レサルヘシト雖トモ茲ニ別紙ヲ以テ彼地視察ノ一般概況及調査ノ細目並ニ之ニ對スル意見ヲ具シ之ヲ以テ閣下ノ参考ニ資スルヲ得ハ聊カ生等ノ本懐トナス所ナリ

右及復命候也

清國視察員
縣會議員 森川友藏
柿彌十郎

明治四十三年十一月

三重縣知事有田義資殿

目 次

一般觀察概況

一 漢口及其附近二於ケル紅茶製造及輸出

(一) 山方經濟

(二) 茶館經濟

(三) 洋行經濟

一 漢口製茶輸出額統計

一 漢口磚茶製造及運輸

A 製造狀況

B 生產額

C 資金

運賃

上海製茶輸出額

南京其他ニ於ケル製茶及生絲類輸出額

天津木材輸入額

結論

紅茶、磚茶、綠茶、養蠶、木材

一般視察概況

生等曩ニ御推薦ヲ被リ清國各地ニ於ケル一般製茶ニ關スル製造情況、販賣ノ摸様其他茶業ニ關スル諸般ノ調査並ニ養蠶、林業ニ關スル各般ノ情況視察ヲ爲スタメ△明治四十三年九月二十三日縣地ヲ出發シ神戸港ヨリ因幡丸ニ搭乗シ途中門司ヲ經テ同月二十七日清國上海ニ上陸シ直ニ副領事浮田郷次氏ヲ訪問シタルニ同領事ハ懇篤ナル便利ヲ與ヘラレタルヲ以テ各地商館其他ニ就キテ詳細ナル視察ヲ爲スト得タリ夫ヨリ同領事館ヲ辭シ滬寧鐵道二百三哩ニヨリ南京ニ向フ途中蘇州、無錫、鎮江等ノ地ニ立寄リ△同月二十九日南京ニ達ス先ツ南京領事館ニ出頭シ領事原貞澄氏ニ面會シ茶業其他視察ニ對スル打合ヲサシタルニ氏モ亦極メテ懇切ニ指導ヲ與ヘラレ附近ノ茶園及茶況等ヲ視察シ△十月三日南京ヲ出發シ一行ハ楊子江ヲ遡ル途中安慶、徽州、樂平、豐城、改源、鏡子、祁門等ノ地ヲ經テ同五日漢口ニ到着ス此ノ航程三日間約六百哩ナリ△同六日漢口總領事館ニ到リ領事官補來栖三郎氏ニ面會セリ同領事ハ茶業上ニハ特ニ熱心ニシテ視察上大ナル便利ヲ與ヘラレ殊ニ同地ニテ有名ナル露國人ノ經營ニ係ル磚茶製造會社へ工場ノ視察ヲ紹介サレ相伴ヒテ同工場ニ至リタルモ一切縱覽ヲ拒絶サレタルヲ以テ内部ノ情況ヲ視察スル能ハス之レカ爲メ同領事ハ更ニ支那人ノ經營ニ屬スル磚茶製造工場へ使ヲ派シテ工場視察ノ便利ヲ與ヘラレタキ旨ヲ交渉ヲ爲シタルモ之亦縱覽ヲ許シ難シトノ回答ニ接シ遂ニ其ノ目的ヲ達ケ得サルハ余等一行ノ實ニ遺憾トスルトコロナリ如上磚茶工場ノ調査ハ空シク其ノ目的ヲ達スルヲ得ス於是已ムナク附近商業家ニ就キ磚茶ノ情況ヲ調査シ稍ヤ其ノ概況ヲ知ルヲ得又紅茶及烏龍茶等ニ付テモ既ニ其ノ期節ヲ終リタル後ナルヲ以テ實地ヲ見ルコト能ハサルモ支那人ノ當業者ニ付キテ詳細ヲ取調ヘ得タリ同夜來栖領事ハ余等一行ヲ領事館ニ招カレ晚餐ノ饗應ヲ受ク日本茶業視察團トシテ歡迎サレタルハ余等ノ深ク謝スル所ナリ△同月七日小蒸漁船ニ投シ武昌

ニ渡航シ同地ノ製茶業者二三ヲ訪問シ其レヨリ高等農學堂ニ至リテ美代堂長(日本人)ニ面會シ
清國ニ於ケル茶業上ニ關スル取調ヲ爲ス美代氏ハ渡清以來此處ニ堂長タルコト十有一年ニシテ
製茶ハ勿論其他ノ農業上ニ於ケル支那通ナリ然レハ支那人一般ノ信用ヲ博シ居レルコトハ曰フ
迄モナク支那政府ニ用キラレ居リ氏ハ本年六月上旬ニモ支那政府ノ囑託ヲ受ケ支那人ノ生徒十
四名ヲ引率シ原產地ニ至リテ日本綠茶ノ製造方法ヲ教授シタル等紅綠茶ノ製法ヲ始メ製茶事業
ニ關スル各般ニ精通スル人ナルヲ以テ同氏ノ今日迄ノ實驗談及氏カ抱持セル茶業ニ關スル將來
ノ意見ヲ叩キ夫レヨリ原產地タル漢陽、新堤、荊州、安陸、漢江等ノ各地方ノ茶樹栽培ノ情況ヲ視
察シ製茶ノ產額及製造販賣ノ情況其他ニ關シ及ヒ收穫ノ情態、生產費等ノ概要ヲ調査シ△同月
八日午前四時漢口ヲ出發シ京漢鐵道ニ依リ北京ニ向ヘリ此ノ行程約八百哩ナリ△同日午後六時
北京ニ到着シ翌十日日本公使館ニ出頭シ伊集院公使並ニ公使館二等通譯官小村俊三郎氏ニ面會
シタルニ兩氏共ニ懸ナル便利ヲ與ヘ吳レタルカ公使館ヲ辭シ直ニ市中各商店ヲ訪ヒテ茶業ニ關
スル實況ヲ視察シタル上△同月十一日午後四時滻車ノ便ヲ得テ天津ニ出テタリ之ヨリ先北京區
陽門停車場出發ノ際ノ如キ小村通譯官ハ先ツ停車場ニ在リテ余等一行ヲ以テ日本茶業家ノ代表
者トシテ特ニ出發ヲ見送ラレタルハ余等ノ記念スヘキコトナリ△同日午後二時京奉鐵道ニ乘リ
午後九時天津ニ着ス△同月十二日午前天津總領事館ニ出頭シテ小幡總領事ニ面會シ種々視察上
ニ對スル便宜ヲ與ヘラレ市中ニ於ケル各製茶商館ヲ視察シ及ヒ三井銀行正金銀行等ヲ歷訪シタ
ルニ正金銀行總支配人成川叡二郎氏ハ余等一行ヲ招キ同夜盛ナル招待會ヲ設ケラレ且ツ氏ニ付
キ天津ニ於ケル茶業上ノ視察打合ヲナシ同夜十一時發滻車ニテ天津ヲ出發シ北清鐵道ニ搭ス約
九時ニシテ△翌十三日午前八時山海關ニ到着ス同停車場ヨリハ驢馬ヲ備ヒ萬里ノ長城并ニ其ノ
附近名勝地ヲ經テ△十四日午前八時山海關ヲ出發シ營口ニ向フ滻車中拾時間ヲ經テ午後三時營
ノ大要左ノ如シ

漢口及其ノ附近ニ於ケル紅茶製造及輸出

(一) 山方經濟

山方トハ茶ヲ栽培シ製茶トナシテ茶莊ニ賣渡ス迄ノ手順ニシテ其ノ經濟情況左ノ如シ

一、耕作費 (但シ山茶ノ外耕地ニ關スル分)

耕作及除草ハ毎年二回行フ、決シテ人夫ヲ使用セス各自比隣相扶助ス肥料ハ多ク糞類ヲ用フ、
價格百斤ニ付清錢五十文ナレトモ之ヲ購買シテ施肥スルカ如キハ最モ稀ナリ
二、特ニ地代ヲ拂フテ栽培スルコトナシ只安化祁寗等ノ良茶產地ニテハ借地栽培スルモノアリ
地代ハ高價ナリト云フ

三、地租、政府ハ獎勵ノ爲メ免除ス運搬ニ當リテハ厘金ヲ徵收ス

茶館ハ茶莊ナリ原生產地ニ買出シニ行クモノトス

一、買入價格 大約次ノ如シ

祁門茶 每担 六〇兩……三〇兩

寧州茶 三〇兩……二二兩
一二兩……一兩

羊樓洞茶 二六兩……一兩
一二兩……九兩

安化茶 一二兩……一兩
一一兩……九兩

桃源茶 高橋茶 長壽街茶
通山茶 一二兩……一兩
一二兩……九兩

高橋茶 長壽街茶
通山茶 一二兩……一兩
一二兩……九兩

高橋茶 長壽街茶
通山茶 一二兩……一兩
一二兩……九兩

因ニ地方農民ハ自ラ茶莊マテ運搬スルヲ以テ運賃ヲ要セス

二、箱詰諸費用

茶莊ハ買集メタル茶ヲ選分ケ質ニヨリ種ヲ分チ秤量箱詰メニス特ニ一部ニ限り更ニ爐焙ス、
茶莊ノ費用ハ練撰量秤ノ勞力及(時ニ爐焙費)荷造費ナリ練選秤量ハ普通人夫賃ヲ要スルノミ、
爐焙費ハ器物燃燒原料ノ費用ヲ要スルノミ、荷造費ハ箱ノ大小ニヨリ異ナルモ一個ニ付キ

大箱 一串文 (邦貨六拾五錢)

小箱 七百文 (同) 五拾錢

附 賣買慣習

賣買慣習ハ地方ニヨリテ異ナルモ茶莊ハ毎年清曆三月ノ製茶期ニ產地ニ至リ粗採茶ヲ買集ム
ルヲ常トス又豫約買收ノ方法アリ、茶莊ハ毎年清曆年末ニ翌年ノ製茶高ヲ見越シテ其ノ見積
價格ノ半額ヲ前金拂渡シ農民ハ之レニテ新年ヲ迎フ但シ資本家ノ大部分ハ露國人ノ茶莊ナリ

三、箱詰茶ノ運賃

茶莊ハ自己ノ計算ヲ以テ漢口ニ運搬ス

A、祁門茶(安徽徽州府)產地ヨリ漢口迄水路一〇二〇清里、祁門ヨリ民船又ハ小漁船ニヨ
リ九江ニ至リ九江ニテ積替ヘ漢口ニ至ル

祁門至九江運搬費日數四日、一箱ニ付太凡三百文一頓ニ付二兩位

九江至漢口漁船費一頓(十三箱)積替及一切費用ト共ニ三兩半以上合計五兩半

B、寧州茶(江西南昌府)

義寧州至九江約四百清里、民船ニヨリ運搬ス運賃二百五十文位、九江ヨリ漢口迄ハ前記
ノ如シ

合計一頓ニ付五兩餘

C、安化茶(湖南省)

漢口迄水路一〇〇〇清里ナリ民船晝夜兼行四五日ニテ達ス運賃一箱八〇〇文即チ四枚

D、羊樓洞茶(湖北省)
羊樓洞ヨリ張家嘴迄一箱六十五斤入 一二〇文

張家嘴ヨリ漢口迄積替費用共ニ 三八〇文

附 合計 五〇〇文約半兩

茶莊取引慣習

茶莊ハ漢口ニテ自身洋行ト取引スルモノアリ又ハ茶棧ニ委托シテ洋行ト取引スルモノアリ當
地ノ主ナル茶棧ハ次ノ如シ

上セイロン茶ヲ
混セルモノ

綠磚茶

一、九六、五六同
三、七六七同
三四、五五同

テブレット

一、九七同
二四、五九同
九七、八九同

同上セイロン茶
ヲ混シタルモノ

二四六、三同
三六九、九七同

塊粉莖

一、九六同
二、二九、七同
三、二九、六同
二七九、九九同

茶茶茶

一、九六同
二、二九、七同
三、二九、六同
二七九、九九同

塊粉莖合計

一、九六同
二、二九、七同
三、二九、六同
二七九、九九同

同漢口ニ於ケル磚茶製造及運輸

一、漢口ニ於ケル露國磚茶製造狀況ハ露國ノ保護ニ因リ悉ク露人ノ經營ニ係ル其ノ生産高及製造ニ關スル情況左ノ如シ

A、製造狀況

近來露國英國ニ於ケル磚茶ノ需要頓ニ増加セシ爲メ製造日ニ盛ナリ製造所名ハ
阜昌洋行 Molochomoff, chechaneoff and Co.
新泰洋行 T.A.Koholosky, Tradinill Co.
順豐洋行 Lit. Knopf and Co.

露人經營

B、生產額

清人ノ觀察ニ因ルモノ次ノ如シ

阜昌、毎日生産高 四八〇箱 斤數七六、八〇〇清斤

新泰 二四〇箱 三八四〇〇斤

順豐 六〇〇同 九六〇〇同

興商 一二〇同 一九二〇〇同

各製造所共製品ハ一枚重量二斤ノ磚瓦形ニテ八〇枚一箱トス之ニ由リ合計一日ノ生産高ハ二
三〇、四〇〇清斤ナレトモ機械ノ製造力ニハ尙餘力ヲ有ス
磚茶ハ當地ニテ需要セス悉ク海外輸出ノ目的ノ爲メニ製造セラル、故稅關報告ニヨル漢口輸
出高ハ生産額ト見テ大差ナカラソカ稅關輸出報告ニ依レハ

紅磚茶 錫蘭茶混入 級 磚茶 磚茶 板茶 同上錫蘭茶
一九〇六年 二三〇八担 一二〇三同 三一八二同 三九六同 三九七同

一九〇七年 二〇八五同 一〇〇六九同

一九〇八年

二〇九七同

二六八九同

二六八九同

四五〇同

四五〇同

一九〇九年

二三〇三同

一五九六同

二九五九同

三〇六六同

一〇

磚茶製造ノ爲メ混合用トシテ輸セラル、錫蘭茶及印度茶ハ次ノ如シ

錫蘭茶 錫蘭粉茶 印度茶 ジヤバ茶

錫蘭

錫蘭

錫蘭

一九〇六年

二六六兩

一五三三兩

二六九六兩

二六六九兩

一九〇七年

四七〇三擔

一四九三八兩

一四九六八兩

一九〇八年

四七〇三擔

一四九三六兩

一四九六九兩

一九〇六年

七担

一四九三八兩

一四九六九兩

一九〇七年

七担

一四九三六兩

一四九六九兩

一九〇八年

七担

一四九三六兩

一四九六九兩

一九〇九年

七担

一四九三六兩

一四九六九兩

(A) 長江漁船ニテ上海マテ義勇艦隊及海洋船ニテ浦鹽ニ向フ

義勇艦隊或ハ海洋船ニテ浦鹽ニ直航

(B) 天津ヨリ陸路ニテ西比利亞ニ入ル

英國其他歐州向

(C) 上海ヨリ漁船ニテ直航ス

輸出額、一千九百九年ノ稅關統計ニ因ルモノ次ノ如シ

目 的 地

浦

塲

ニコライスク

オデツサ

露沿海州

二四七七八同

一三〇同

五四〇七四一同

五六八〇八同

上海

紅磚茶

綠磚茶

茶

磚茶

綠茶

茶

磚茶

合

計

一五六六四七五同

三三七六七同

一一四五四六同

清國內ノ他港ニ輸出スルモノ

目的の地

紅茶

綠茶

テーブレット、ティ

一七八二一〇七二同

四四二七〇六同

六三四四三担

六七七〇〇兩

一八三一九三同

二〇三六二同

二一二二同

一九五九三同

九四五同

一七六同

一九三〇一七六同

九〇七二同

一七六同

一〇六八〇同

一七八八四八同

一七六同

一〇六八四五同

一七九八九同

一七六同

一〇六八三二同

一七九八八同

一七六同

一〇六八七八同

一七九八八同

一七六同

一〇六八七同

一七九八九同

一七六同

(A) 漢口ヨリ上海マテノ普通運賃ハ左記ノ如キモ其ノ特約運賃ハ知ル能ハス

露一ブートニ付

七哥

三、運賃

總合計

他

莊

津

江

海

七四同

五同

二二三〇七一五同

同

二三六九五八七同

同

二七九五九九同

同

六七七〇〇同

同

三三四三同

同

一七八八四八同

同

(B)

コングー茶(紅茶葉)

同上

七哥

四哥

磚茶

同上

七哥

四哥

歐州向紅茶ノ運賃ハ漢口ヨリ上海マテ一噸二五〇兩ニテ普通貨物ト同シ

上海ニ於ケル積替費用

一定セナルモ概要次ノ如シ

百頓ニ付テ

最高三十五兩(上海兩)

最低三十五元(百元ニ付)

露貿

四哥

四哥

四哥

四哥

四哥

四哥

四哥

四哥

四哥

(C) 漢口ヨリオデッサ行

露國行ノ外ハ磚茶ハ此路ヲ取ルモノナシ

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

上海ニ於ケル製茶輸出額

漢口

茶

茶

茶

茶

茶

茶

茶

茶

茶

茶

茶

茶

上海製茶輸出

稅關報告ニ基キ本年九月二十一日漢口商務總會ヨリ出版サレタル統計ニ依レハ

九月一日マテニ輸出セラレタル製茶額ハ次ノ如シ

(一) 上海輸入

自一九一一年

漢

口茶

九

江茶

五六一八九二八

茶

茶

茶

茶

自一九〇九年

至一九一〇九年

一一三〇一八二〇八

三五五四六九九

自一九〇八年

至一九〇九年

一五〇六〇四四〇

四四九七〇二八

四一四七二二七

(二) 上海ヨリ各國輸出

(一九一〇年ヨリ一九一一年ニ至ル一期間)

磅

英米露歐國

四六一二八三五

米洲露國本土

二四一三三六〇

露國(西比利亞經由)

三一一二三五

露國本土

五三四二二五九

露國(西比利亞經由)

三九五四三二

上海海

三一一二三五

(三) 上海ヨリ各國輸出

一九〇九年度及一九〇八年度ノ輸出額次ノ如シ

一九〇九年度

二一八六二六七磅

三三八八六四〇磅

五八九三五六四

二五三〇〇〇八

二六〇二〇三五

二二三五四七七

一二五四〇一

一〇二四二八

五三四二二五九

英米國加奈太

三五五四六九九

歐洲大陸

九〇二二四九九

露國本土

一六五

露國「シベリア」經由

一六五

上國

一六五

直接ニ外國ニ輸出セラレタルモノ

一六五

(四) 直接ニ外國ニ輸出セラレタルモノ

一六五

米英國

一六五

米英國

一六五

歐洲大陸

一六五

歐洲大陸

一六五

露領亞細亞

一六五

露國本土

一六五

露國本土

一六五

一、製茶輸出額

一六五

蕪湖輸出製茶

一六五

四年十一年

四十二年

一一一年

一二二一年

一八七年

一六五年

又四十一年度統計ニ依レハ

一六五

紅茶

一四六二

綠茶

五〇六五兩

綠茶

四五七三五

蘭 レ フュ ー ス

二 三 八

三 八 一

三 八 一

絹 線 製 品

三 三 五

二 六 六 三

リ ボ ン

一 七 五

一 四 五

金銀絲入絹製品

二 六

三 三

又四十一年度統計ニヨルトキハ南京輸出ノ生絲類ノ價格ハ次ノ如シ

數

一二三担

五七七六三兩

四九七五

生 絲 白 色

一 一 八

八三三三

九二六二

生 絲 黃 色

三三七

九五三九

二〇八八九〇四

蘭 紗 肩

二七一八

一一〇六七一

二一〇六七一

蘭 紗 肩

三三八

五七七六三兩

一 二 五

蘭 紗 肩

二七八

四六三担

一 二 三 担

同 上 分類以外ノモノ

一〇〇

一 二 三 担

一 三 七 七

鎮江生絲類輸出額

四十年度

四十一年度

四十二年度

生 絲 白 色

二七八担
九六五

三八三担
一二三六

四六三担
一三七七

絹 製 品

一〇〇

七四四四〇

生 絲 器 械

一〇〇

五二〇九四六兩

生 絲 黃 色

一〇〇

八九六六

絹 製 品

一〇〇

五一二九九

生 絲 白 色

一〇〇

三一二九〇

絹 製 品

一〇〇

八三五七七八

蘭 紗

一〇〇

一 一 五 五

蘭 紗

一〇〇

一 一 二 五 六

蘭 紗

一〇〇

一 一 三 二 六

同上分類以外ノ者

天津ニ於ケル木材輸入額

四十二年中天津木材輸入高ハ次ノ如シ

一、外國木材輸入總高

ビーム及ロッド

名

立呂

數量

價

格

海關兩

九三六九六

品

(硬)

單位

二五四六一〇

同

上

(軟)

三六六八二〇二三

七一五三〇〇

四八七三〇〇

チ

一

ク

四〇六〇八

一八五〇〇〇

桂及ボール

板

立呪

本

條

立呪

平呪

立呪

同上

(チーク)

立呪

九三二二

枕木

(鐵道用)

立呪

三〇四九八九

同上

(建築用)

立呪

二六一八一二

二、日本木材輸入高

本

立呪

二七九七四二

柱及ボール

(軟)

立呪

二二一七

同上

(軟)

立呪

一六一六六三

板

(軟)

立呪

一六二六四

右ノ外前項記載枕木ノ全部

本

立呪

七九七八四

三、米國木材輸入高

本

立呪

七七三三五

品名

本

立呪

七七三三五

板

(軟)

立呪

二四八二五一

四、清國產木材輸入高

本

立呪

二二一七

品名

本

立呪

一六二六六三

ビーム及ロツグ

(軟)

立呪

一六二六六三

同上

(軟)

立呪

一六二六六三

(軟)

(軟)

立呪

一六二六六三

(大)

(軟)

立呪

一六二六六三

(小)

(軟)

立呪

一六二六六三

ジヤンク

本

立呪

一六二六六三

五、天津ヨリ内地向搬出高

本

立呪

一六二六六三

乙、ザヤンク積鴨綠江材

本

立呪

一六二六六三

三百〇二雙

本

立呪

一六二六六三

左ノ如シ

本

立呪

一六二六六三

甲、子口單付ニテ搬出シタル外國材

角

材 (軟)

一四九七九二四三平呎

ボル (軟)

乙、鴨綠江材

六四七九四五四平呎

六、鐵關取扱輸入木材高

角材及板

十三萬六千九十八本

一八一〇〇四本 (但鴨綠江材ヲ含ム)

一三二九一本

ボ

一

ル

× × × × × × × ×

結論

一、紅茶

支那ノ特產物タル紅茶ハ漢口其ノ他附近ノ各地ニ於テ盛ニ製造シタルモノヲ漢口ニ集中シ露國本土ヲ始メトシ西比利亞大陸、米國加奈太、英國、佛國ノ諸方ニ輸出シ居リ其ノ製造方法ハ萎凋、搓揉、水乾、罨蒸、日乾等ノ方法ニ由ル方今ニ在リテハ更ニ大規模ノ機械製ト爲シ品質ハ極メテ佳良ナルモ之ヲ印度製紅茶ニ比較スルトキハ香氣ニ於テ稍ヤ劣レルノ感アリ製造場ハ露國人ノ合名會社多クシテ紅茶磚茶ノ二種ヲ製造シテ日々ニ販路ヲ擴張シツ、アリ、製造方法ノ内容ハ堅ク工場ノ秘密ヲ守リテ内部ノ情況ハ容易ニ視察スルヲ得サルモ精巧ナル機械ヲ應用シ原動力ニ依リテ荒採ヲナシ框付ノ桶様ノモノニテ薰蒸シ日光ニ晒ラス等ハ敢テ日本内地ノ製造方法ト大差

ナキモ規模ノ宏大ナルハ驚クノ外ナク、原料ト爲スヘキ茶葉ハ茶園ヲ要セス天然ノ山茶多ケレハ茶園ノ培養ヲナスコトナクシテ自ラ「アク」ノ少ナキ天然ノ良葉ヲ摘採シ得ルト一方勞働工賃ノ低廉ナルカ故ニ比較的製產費ヲ減少シ經濟上ニ至大ノ利益ヲ生スルノミナラス、此等ノ山茶ハ到ル處ニ滿チ製茶原料ノ豊富ハ實ニ世界ニ於テ紅茶ノ勢力ヲ占ムルノ大ナル原因トハ爲レリ殊ニ獨リ紅茶ノミナラス支那政府ハ製茶獎勵策トシテ斯業ニ課稅セサルカタメ茶價ハ割安ニ販賣シ得ルノ利便アリ、加フルニ輓近清國人ハ盛ニ製茶ノ改良ニ全力ヲ注ギ居リテ武昌地方高等農務學堂(農學校ノ類)ニハ日本人ノ農業教師美代清彥氏ヲ傭聘シテ茶園ノ栽培及製造方法ノ最新學說等ヲ教ヘシム、美代氏ハ漢口北部六安洲、同南部新堤等ノ地ニ於テ清人ノ生徒ニ實地栽培法等ヲ講習セシメ從來ノ天然栽培ニ改良ヲ施スコトニ心ヲ傾クルニ至ル之ヲ要スルニ清國ノ紅茶ハ單ニ天然ノ利ヲ以テ紅茶ヲ製造シ日本内地ニ於ケル如ク茶園ニ肥培シタルモノヲ原料トナスニアラス加之日本内地ニ於テハ勞働賃金ヲ支拂フニモ支那ノ夫レノ如ク低廉ナラサルモノアリ、然レハ紅茶製造ニ對シテハ清國製造ト敢テ異ナラサルモノヲ製出スルヲ得ルトスルモ現ニ勞働賃金ノ高キ點ヨリ考フレハ今後本縣下ニ於テ之カ製造ヲナスニ當リ製造經濟ノ上ヨリ見テ支那紅茶ニ勝チヲ制スルコト困難ナルヲ發見セリ故ニ紅茶ハ天然ノ原料ノ佳良ナルト工賃ノ低廉ナルニアラサレハ不利益ナルコトヲ信スルモノナリ而シテ紅茶ノ販賣取引ニハ露國人ノ一手ニ引受ケ大資本ヲ投シテ殆ント專賣ヲ爲スノ情態ニ在ルヲ以テ支那以外ノ製造品ノ貿易ヲ忌ムノ感アリ

二、磚茶

磚茶モ亦紅茶ト等シク漢口特有ノ產物タリ製造場ハ露人ノ經營ニ屬シ阜昌、新泰、順豐ト稱シ何レモ豐富ナル資本ヲ有シ工場ノ盛大ナルコト眼ヲ眩スルカ如シ、別ニ興商磚茶公司ト稱シ清國

八ノ經營ニ屬スルモノアレトモ事實ハ露國人ノ資本ニ依ルヲ以テ其ノ實權ハ露國人ノ掌中ニ在リ工場ノ秘密ヲ守レルコト露國人ノ工場ト異ナラサルハ想フニ露人ノ制肘ニ由レルモノト知ラル、而シテ外國人ノ工場觀覽ヲ避クルハ主トシテ日本人ノ視察ヲ嫌忌スルモノ、如シ、此等各工場ノ製品ハ悉ク大仕掛ノ器械製ニシテ漢口全市ノ繁榮ハ恐ラク磚紅茶ノ製造ニ依リテ維持セラル、ノ觀アリ、以テ如何ニ製茶事業ノ盛ナルカラ観知スルニ足ルヘシ、其ノ販路ハ多クハ露國及西比利亞大陸ニシテ漢口ニ於ケル此等製造會社ハ露人ノ獨專事業トシテ跋扈シ余等視察團ハ來橋領事ノ紹介ニ依リテ前記ノ各會社ヲ訪問シタルモ絕對ニ内部ノ視察ヲ拒絶セラレタルヲ以テ遺憾ナカラ附近ノ當業者ニ就キ調査ヲ遂ケタルカ、製造方法ハ近來更ニ進歩セシカ如ク其ノ輸出額ノ增加ハ著シク印度地方ヨリノ原料輸入高ノ嵩ミタルニテ明瞭ナリ、如上ノ磚茶ハ總テ原料茶葉ノ大部分ヲ印度ヨリ輸入シ之レニ支那粉茶ト二番茶以下ノ粗製茶等ヲ混入シテ製造ヲ爲シ支那獨特ノ製造方法ニ由ルカ故ニ之ヲ日本内地ノ磚茶ニ比較センカ到底優劣ヲ爭フノ餘地ナシ、其ノ一例ヲ示サンカ漢口磚茶ノ盛況ニ鑑ミ一露國人ハ曾テ露國ニ於テ其ノ製造ヲ試ミタルモ勞働賃金ノ高キタメ經濟上ノ不利益ヲ來シ經營遂ニ失敗ニ終リ更ニ漢口ニ移シテ製造ヲ開始スルニ至レリ前記三會社ノ其一ハ即チ之レナリト云フ、然レハ將來日本内地ニ於テ盛ニ磚茶ヲ製造セント欲セハ出來得ヘクンハ印度原料輸入ノ方法ヲ取り會社組織ヲ以テ經營セハ敢テ難事ニアラスト雖トモ勞働賃金ヲ低ククシテ露國方面ニ大ナル販路ヲ需ムルコトヲ得ハ支那磚茶ニ對抗シ得ルコト、觀察セラル

三、綠茶

綠茶ノ產額ハ前二種類ニ比シ極メテ僅少ナルヲ認メタリ、即チ其ノ原產地ト云フヘキハ六安洲、徽洲、崇仁、樂平等ノ各地及岳洲地方ニシテ品質ハ優良ナルモ產額少ナシ今何故ニ支那人ノ綠茶

ニ重キヲ置カサルカラ取調フルニ彼地ニ於ケル紅磚茶ノ製造盛ナルト一ハ綠茶ハ茶園ヲ栽培シ肥培ヲ要スルカ爲メニシテ而カモ清人ノ之ニ力ヲ注クトモ到底日本綠茶ノ勢力ニ壓倒セラル、ヲ自覺シ居ルモノ、如ク、殊ニ支那人ハ大規模ノ機械ニヨル製造方法ニ力ヲ傾ケ日本人ノ如ク指先ヲ以テ茶ヲ揉ムノ煩ヲ厭フニ在リ之レ綠茶ノ振サル所以ニシテ綠茶ノ製造及栽培ニ就テハ寧ロ日本内地製茶ノ優レル遠ク支那茶ノ比ニアラス隨テ彼地ニ於テ摸範ト爲スヘキモノアルヲ認メサルナリ

四、養蠶

支那ニ於テ養蠶事業ノ最モ盛ナルハ浙江省江蘇省等ノ各地ニシテ同地方ハ蠶業ニ地利ヲ得桑樹ノ成績モ亦頗ル、良好ナルヲ認メタリト雖トモ支那人一般ハ蠶兒ヲ飼育スルニ其ノ方法極メテ幼稚ナルカ故ニ蠶孽等ノ粗惡不完全ナルハ勿論一日ニ三四回位天然桑ヲ與ヘテ飼放シヲナスニ過キス故ニ多クノ當業者中ニモ學理ヲ應用シ改良飼育法ヲ行フモノアルヲ聞カス殊ニ蠶種ハ極メテ雜駁ノモノヲ用キ毫モ統一セサル爲メ收繭モ亦其ノ種類區々ニ別レ品質ノ一定セサルコト夥シテ天然ニ發育スルモノニシテ蠶兒ニ取リテハ最モ適當ノ飼料ナルモ飼育方法ノ不完全ナルカ故ニ農家ノ收繭ヲ見ルニ恰カモ指先ヲ切落シタル形狀ノモノ或ハ柄ノ實ニ似タルモノ等居ルモ其ノ產額ノ多キコトハ我國ニ數倍スルヲ以テ今後飼育方法ニ改良ヲ加ヘ桑樹ノ栽培ニ力ヲ注キ斯業發展ヲ爲スニ至ランカ前途ノ優勢ナルコト論ヲ俟タス既ニ日本人ノ教師ヲ傭入レ盛

ニ指導ヲ加ヘツ、アルノ點ヨリ見レハ將來支那ニ於ケル養蠶事業ハ我國蠶絲業ノ強敵ニシテ本邦蠶絲業者ノ最モ警戒ヲ要スル事柄ナリト觀察セラル

五、木材

清國ノ木材ハ四川地方ハ勿論鴨綠江沿岸ニ產出スルモノ多ク其ノ產出ノ多額ナルハ吾人ノ嘆々ヲ要セス而カモ其ノ木材河下ケノ情況偉大ナルハ到底短日月ヲ以テ詳細ナル視察ヲ爲スノ餘地ナシ今回ノ視察ハ僅々其ノ一端ヲ取調へ漸ク其ノ一部ニ屬スル木材販賣ノ情況等ヲ查察シタルニ過キサルナリ、支那ニ於ケル木材產地ハ叙上四川州ヲ第一シ其他各地方ヨリ產出スルモノノ多クハ筏ニ編立テ揚子江上流ヨリ下流ノ各沿岸地ニ河下ケシテ漢口其他主ナル都市ニ於テ之ヲ販賣スルヲ常トス、由來清國ノ木材ハ其ノ種類多々ナルモ販賣ノ便宜上硬木、軟木ノ二種ニ大別シ硬木百貫ノ價格何程軟木百貫價格何程ト云フカ如クニテ日本内地ニ於ケル杉、扁柏、松材等ノ細別ヲ爲サス、一般木材業者ハ原產地ニ於テ買入レタルヲ水流ニ應シテ筏ニ組立テ多數ノ人夫ヲ雇入レ幾百里ノ下流ニ下ルモ此等ノ筏ハ日本内地ノモノト大ナル相違アリテ幾百萬貫筏ハ其ノ組立テタル厚サ一丈五六尺以上ニシテ筏ノ延長ハ長キハ七八丁ヲ過クルモアリ筏上ニハ木材商人ノ外筏乘リト稱シ少ナキハ五十人多キハ百餘人ノ人ヲ乗セ數戸ノ家屋ヲ建テ亦數畝歩ノ烟地ヲ設ケ此ノ烟ニ依リテ蔬菜ヲ栽培シ優ニ十家族以上ノ生活ヲ爲スカ如キハ頗ル奇觀ニシテ余等内地人ノ曾テ見ル能ハサル圖ナリ、而シテ此等ノ木材ハ河下ケ途中ノ沿岸各地ニ於テ一萬貫以上位纏リタル顧客ニ接シタルトキハ小口ヨリ筏ヲ解キテ販賣スルニテ全部ヲ賣却シ終迄ニハ早キモ二箇年遲キハ三ヶ年ヲ經過スルモノ少ナカラス爲メニ筏乘人夫等ハ出發以來自宅ニ歸着スルマテニハ出發ノ當時一人ノ子供ヲ有セサリシモノ三歳以下數人ノ兒女ヲ抱ヘテ自家ニ入ルモノヲ見ルト云フ、亦製材情況ヲ調査シタルニ日本内地ニテ長サ一間ノ木材ハ支那人需

用ニ適合セス支那人ノ家屋建築ニ使用スル所謂一間モノト稱スルハ幹長八尺以上ヲ程度トシ内地ニ於テ二間長サノモノ又之ニ準ス然ルニ本邦ヨリ輸出スル各種木材ハ概ネ一間モノハ六尺餘二間モノモ之ニ相當スル長サヲ有スルノミナルカ故ニ需要ニ適セス一般ニ支那木材ニ比較シ材長不足ナル爲メ隨テ價格ハ支那木材ヨリ低廉ナルヲ認ム、然レハ今後清國ニ向テ輸出スヘキ木材ニ對シテハ大ニ寸法ヲ改メ支那人ノ家屋建築ニ適當ナル尺度ヲ有スルモノヲ搬出スルニアラサレハ販路ノ擴張ハ得テ望ムヘカラス因ニ曰フ支那ニ於ケル家屋ノ建築ニ就テハ田舍向ノ民家ハ概ネ自然石若クハ粘土ノ壁ヲ用キテ見苦シキ家屋ニ居住シ木材ヲ用キタルモノ稀ナリ、美麗ナル木材ヲ使用スルハ都會地ノ家屋ニ過キス、故ニ木材ノ田舍向ニ使用サル、ハ十分ノ一乃至十分ノ二ニ達スノミ即チ中流以上ノ家屋ニアラサレハ木材ヲ用キナルノ習慣ニシテ用材ノ種類ハ柳樹ノ大ナルヲ以テスルモノ多シ然ルニ近來各地建築ノ進歩ト共ニ田舍向ニ木造家屋ノ數ヲ增加シ來リ特ニ橋梁若ハ大家屋ノ建築ニハ日本木材ニアラサレハ米國ヨリ輸入ノ木材ヲ使用スルノ傾向アリ、現在ニ於ケル日本輸出ノ木材ハ杉、扁柏、松等其主ナルモノニシテ支那ニ在リテハ此等ノ木材ヲ軟木トシテ取扱ハレ價格ハ比較上低廉ノ觀アルヲ免レス、而シテ清國ニ於ケル一般木材使用ノ趨勢ハ目下ニ在リテハ節多キ下等材ニ過キサルモ漸次ニ此ノ流潮ハ進歩シ地方ニヨリテハ優等ノ良材ヲ使用スルニ至ル、然レハ日本内地ニ於ケル木材業者トシテハ固有ノ品質ニ於テ或ハ米國產ニ一步ヲ遙スルモ清國ニ對スル日本木材ハ其ノ運輸上ニ於テ大ナル利便ヲ有スルヲ以テ其他ノ外國ヨリ輸出スルニ比セハ販賣上ニ少カラヌ利益ヲ占メ得ヘク将来清國ニ於テ日本木材ノ有望ナルコトハ多言ヲ要セサルヘシ、然レトモ支那人ノ家屋建築ニハ前述ノ如ク自ラ日本家屋ト性質ヲ異ニスルヲ以テ當業者カ將來ニ於テ彼地ニ販路ヲ求メントセハ先ツ以テ清人ノ需用ニ適スヘキ木材ノ種類情況ヲ精査シ其ノ尺寸ケヲ改良シ或ハ實地ニ就キ

取引ノ方法等ヲ窮ハムルニアラサレハ大ナル失敗ヲ招クノ虞レアレハ特ニ這般ノ事情ニ留意ス
ルノ必要アリト認メラル

(明治四十三年十月調査)

明治四十四年一月三十一日印刷發行

二 重 縣 誌

三重縣津市笠屋町廿壹番屋敷

印刷兼販賣所 鈴木活版所

鈴木嘉兵衛

三重縣公報(第三種郵便物認可)